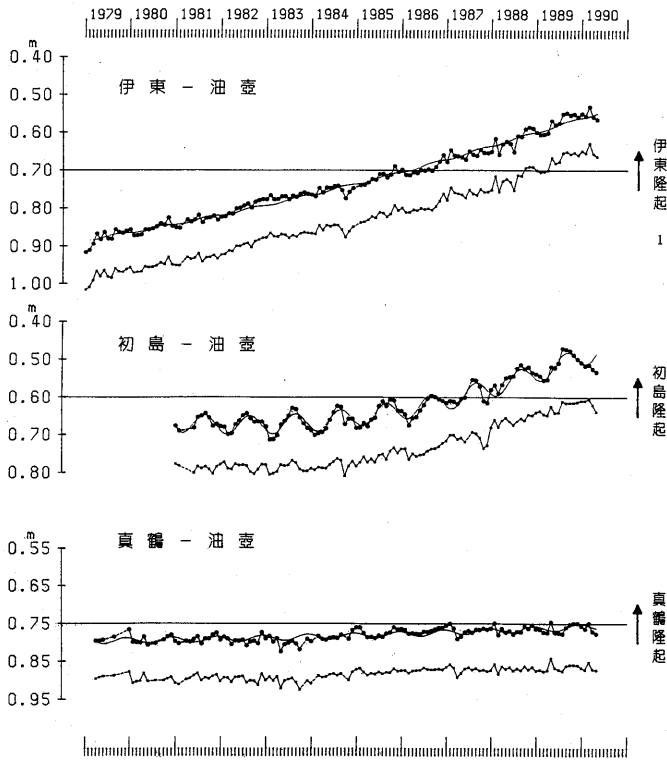


伊豆半島北東部の地殻変動*

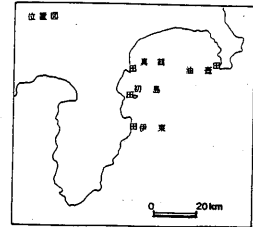
国土地理院

第1図は伊東、初島、真鶴験潮場と油壺験潮場の月平均潮位から求めた伊東、初島、真鶴の地殻上下変動である。各変動グラフの下段のグラフは原データにみられる周期的な変動を除去したものである。伊東、初島験潮場とも今年になってから隆起速度が頭打ちになっているように見える。第2図は水準測量結果で、上段の変動図は昨年の噴火後の測量と今年1～2月の測量による半年間の伊豆半島東岸の上下変動である。

海岸昇降検知センター
「潮位年報」による。



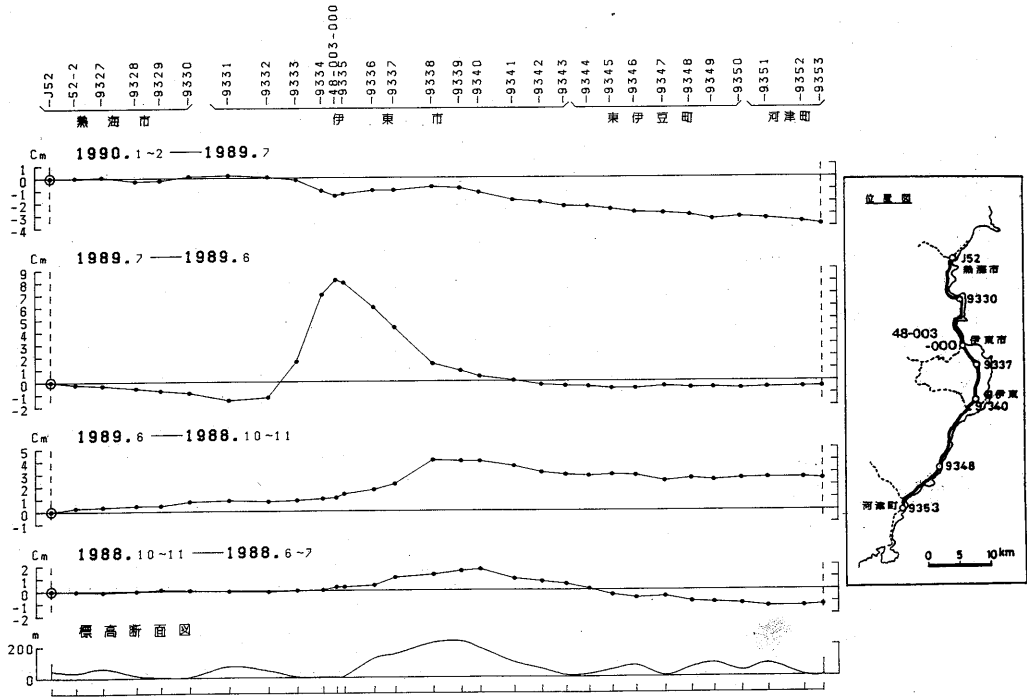
1990年4、5月の潮位データは、テレメーターによる平均値である。
(5月は、15日までの平均値使用)



第1図 伊東・初島・真鶴・油壺験潮場間の月平均潮位差
Fig.1 Monthly mean sea level changes between the Ito, the Hatsushima, the Manazuru and the Aburatubo tide stations.

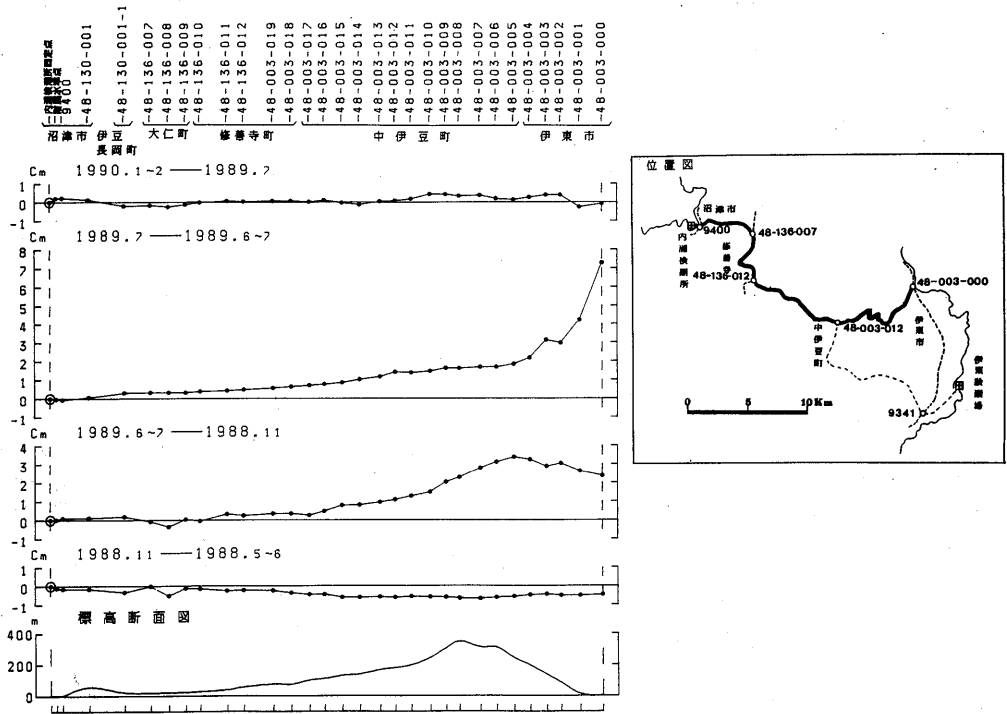
* Received July 7, 1990

河津町に向かって沈降しているようにみえるが、これは測量誤差と思われる。実際にはJ52（熱海市）と9353（河津町）の値とを結んだ線を基準線にしてデータをみるのが正しい。この半年間大きな変化はなかったことがわかる。第3図は内浦検潮所と伊東市間の噴火後半年間の上下変動である。第2図同様変化はない。



第2図 熱海—伊東—河津間の上下変動。

Fig.2 Level changes along the route from Atami to Kawazu via Ito.

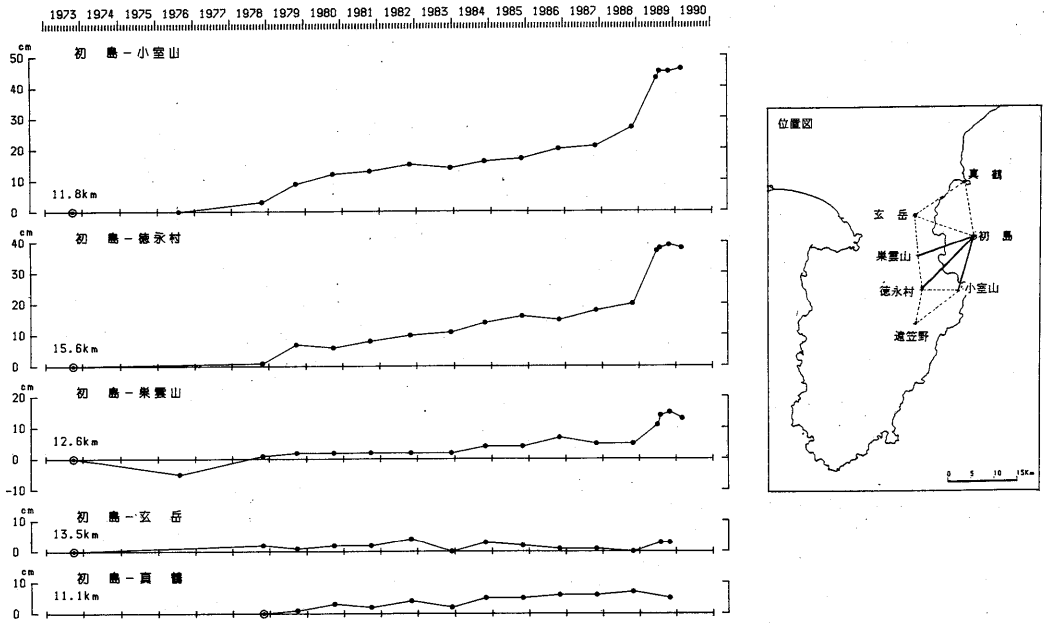


第3図 内浦—中伊豆—伊東間の上下変動。

Level changes along the route from Uchiura to Ito via Naka-Izu.

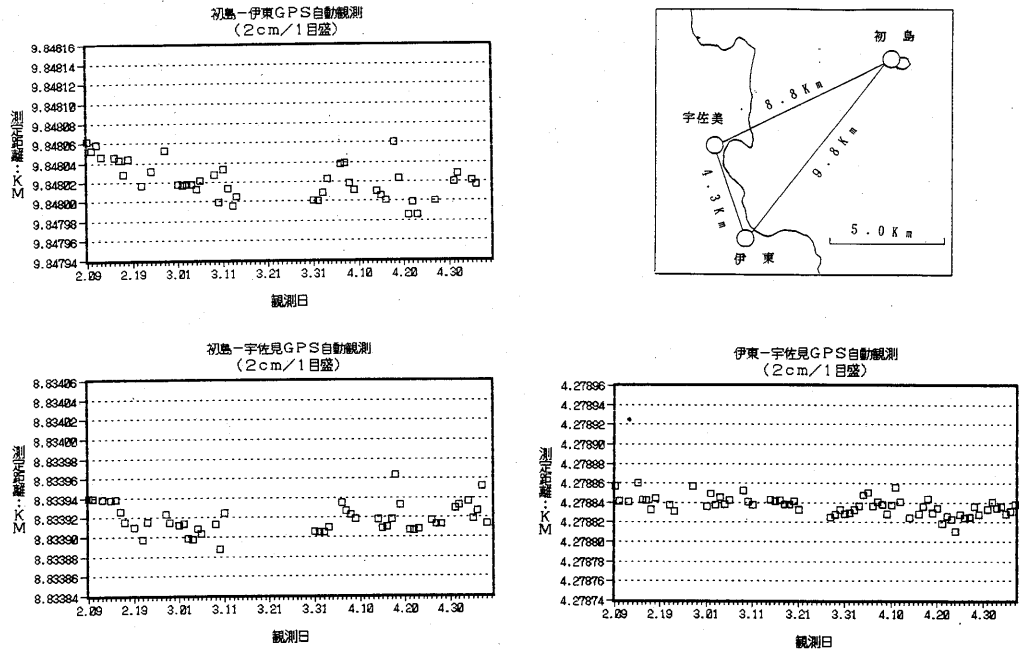
第4図は初島を起点とする距離測量の結果である。初島—小室山間の伸びの変動は止まっているようにみえる。また初島—徳永村，初島—巢雲山測線ではむしろ縮みの傾向にあるようにみえる。国土地理院では，GPSによる連続観測を初島，伊東，宇佐見の三か所で2月から始めた。第5図はその結果である。観測結果がバラついているのは，この期間，試験的にいろいろ観測条件を変えて観測を行っているためである。

辺長の経年変化



第 4 図 伊豆半島北東部精密変調測量結果

Fig. 4 Results of precise distance measurements in the North-eastern Izu Peninsula.



第 5 図 伊豆東部における GPS 連続観測結果

Fig. 5 Results of continuous distance observation by means of GPS in the Eastern Izu Peninsula.